

社会資本総合整備計画(第2回変更)

岩間駅周辺地区都市再生整備計画

平成 30 年 3 月 16 日

茨城県笠間市

社会資本総合整備計画

平成 30 年 3 月 16 日

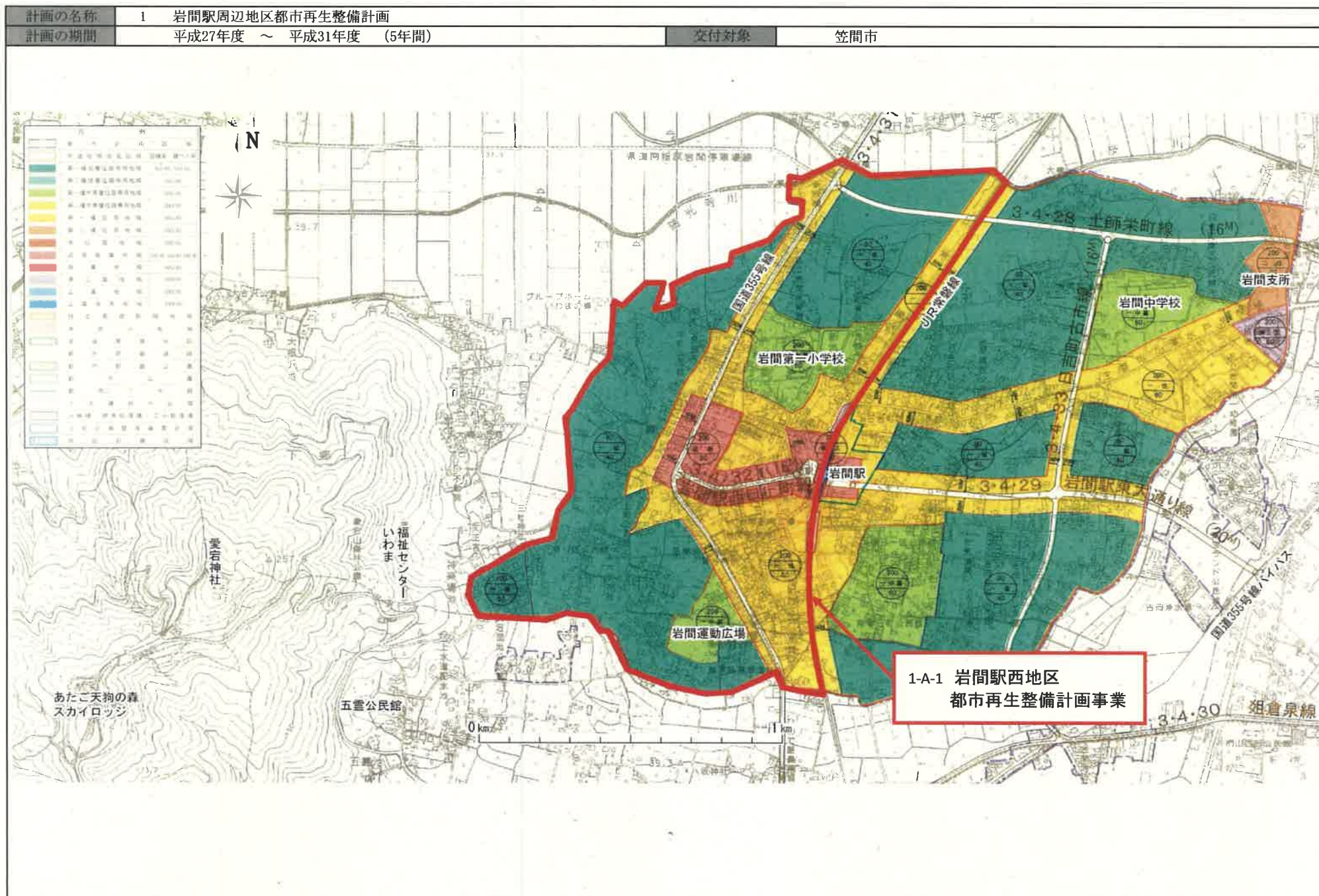
計画の名称	1 岩間駅周辺地区都市再生整備計画														
計画の期間	平成27年度 ～ 平成31年度（5年間）					交付対象	笠間市								
計画の目標															
今回の岩間駅周辺地区については、平成18年度から進めてきた岩間駅の橋上化、自由通路の整備と駅東地区の区画整理事業などが供用開始となり、駅東地区の居住環境整備については一定の区切りがついた。しかしながら、駅西地区については、定例のイベントなどを実施しているが、旧岩間町役場の移転等により周辺の商店街は賑わいを失い、駅から徒歩で楽しめる愛宕山ハイキングの玄関口という資源や駅東地区の整備効果を活かすことができていない現状にある。そこで、駅西地区において、現況を踏まえ地域の活性化を図るため岩間駅周辺と愛宕山をつなぐルートを軸として、商店街の賑わい創出や愛宕山への観光誘導、来訪者・地域住民の双方の交流・活動拠点の整備、歩行空間の整備による既存施設及び駅周辺の魅力・回遊性の向上、駅東地区との連動性向上による既存ストックの再生と活性化等を視点に、快適な滞在時間の構築と地域活性化に資する整備を推進していく。															
計画の成果目標（定量的指標）															
・愛宕山ハイキング施設利用者数 ・岩間駅西側の歩行者数 ・岩間地区で良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合															
定量的指標の定義及び算定式															
愛宕山への誘導が図れたかを調査するため愛宕山ハイキング施設の利用者を調査する。 岩間駅西側の歩行者の数を現地調査する。 岩間地区住民に対して良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合をアンケートにて調査する。										定量的指標の現況値及び目標値			備考		
										当初現況値	中間目標値	最終目標値			
										(H27当初)	(H29末)	(H31末)			
										13,000 人	13,500 人	14,500 人			
										669 人	690 人	740 人			
										28.4 %	28.5 %	35.0 %			
全体事業費	合計 (A+B+C)	692百万円	A	692百万円	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C／(A+B+C)		0.0%				
交付対象事業															
A1 基幹事業															
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
1-A-1	都市再生	一般	笠間市	直接	笠間市	岩間駅西地区都市再生整備計画事業	面積 約137.5ha	笠間市	H27	H28	H29	H30	H31		
														692	
合計														692	
B 関連社会資本整備事業															
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H27	H28	H29	H30	H31		
														0	
合計														0	
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考
C 効果促進事業															
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H27	H28	H29	H30	H31		
														0	
合計														0	
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考

交付金の執行状況

(単位:百万円)

	H27	H28	H29	H30	H31
配分額 (a)	21.8	78.3	126.0		
計画別流用 増△減額 (b)	0.0	0.0	0.0		
交付額 (c=a+b)	21.8	78.3	126.0		
前年度からの繰越額 (d)	0.0	15.8	0.0		
支払済額 (e)	6.0	94.1			
翌年度繰越額 (f)	15.8	0.0			
うち未契約繰越額 (g)	0.0	0.0			
不用額 (h = c+d-e-f)	0.0	0.0			
未契約繰越＋不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	0.0%			
未契約繰越＋不用率が10%を超えて いる場合その理由					

(参考図面) 市街地整備



都市再生整備計画(第2回変更)

いわまえきにし
岩間駅西地区

茨城県 かさま
笠間市

平成30年 3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	茨城県	市町村名	笠間市	地区名	岩間駅西地区	面積	137.5 ha
計画期間	平成27年度～平成31年度	交付期間	平成27年度～平成31年度				

目標

大目標)岩間駅前周辺と地域コミュニティ及び観光拠点施設整備による賑わいの再生
目標1)拠点施設整備による来街者、地域住民間の交流の促進と活動の活性化
目標2)歩行空間の整備による観光資源及び駅周辺の魅力・回遊性の向上

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

笠間市は平成18年に旧笠間市、西茨城郡友部町及び岩間町が合併して誕生した。本市は、JR常磐線と水戸線、常磐自動車道と北関東自動車道のそれぞれの結節点であり、広域交通の要衝ともなっている。
本市の合併前の区域である笠間地区、友部地区、岩間地区の3つの既存市街地は、JR常磐線とJR水戸線の駅、また、神社や焼物などの文化・観光資源を中心としながら商店街が形成され、それぞれの歴史と風土の中で、街の賑わいがもたらされ、活性化が図られてきた。しかしながら、人口減少及び高齢化の進展、郊外の開発、居住者の生活スタイルの変化等により駅を中心とした市街地の衰退がみられることから、平成24年に笠間市駅周辺活性化プランを策定し、駅を中心とした公共施設の再配置を進めている。

今回の岩間駅周辺地区については、平成18年度から進めてきた岩間駅の橋上化、自由通路の整備と駅東地区の区画整理事業などが供用開始となり、駅東地区の居住環境整備については一定の区切りがついた。しかしながら、駅西地区については、定例のイベントなどを実施しているが、旧岩間町役場の移転等により周辺の商店街は賑わいを失い、駅から徒歩で楽しめる愛宕山ハイキングの玄関口という資源や駅東地区の整備効果を活かすことができていない現状にある。

課題

○来訪者が地域に魅力を感じてもらい、市街地を回遊するための環境整備と地域住民と交流ができる拠点施設等がないため、交流施設を中心に来訪者・地域住民の双方に利用しやすい市街地の環境形成を図るため、歩道や公園等の整備が必要である。

○愛宕山をはじめ市街地周辺に点在する観光資源について案内する機能が少なく、回遊性とその魅力を知ってもらう必要があるため、案内看板などで情報発信する必要がある。

○岩間駅の橋上化及び自由通路整備により駅東西の連携や愛宕山周辺の整備も進んでいることから、それらの事業効果をさらに高めることが求められている。そのため、駅周辺から愛宕山までの動線の整備が必要である。

…計画地区は、愛宕山へ続く参道やトロツコ道など、地域の歴史や成り立ちを残す地域であるが、拠点施設がなく歩行空間等の回遊性の向上を図る施設整備が必要となる。また、駅東整備や愛宕山整備事業などと連携をした賑わいの創出は欠かせない要素となる。

将来ビジョン(中長期)

○笠間市総合計画後期基本計画

笠間市の将来像「文化交流都市」の実現に向け、分野を横断して共有する重点視点として「健康都市づくり」「防災力向上」「地域の活性化」を掲げ各種施策を展開する。

市街地の整備については、本市の特性を生かし活力ある地域づくりを目指すため、広域交流拠点や地区生活拠点の強化、交流を受け止めるネットワーク化を図り、市内外の交流の活性化を市民の理解と協力を得ながら、市民生活の質の向上につながる魅力ある市街地の整備を進める。

○笠間市都市計画マスタープラン

「地域の将来像 … 自然を身近に感じる営みがある居住・交流空間」

地域の生活利便機能が集積する駅西市街地と基盤整備が進められている駅東地域が一体となり、地域資源である愛宕山の有する豊かな自然を、暮らしの中で感じることができる居住空間と地域づくりを目指し、地域資源を活かした交流機能の充実や美しい地域空間の創出などを進める。

○駅周辺整備活性化プラン

賑わいが失われている駅西地区の現況を踏まえ、駅周辺と愛宕山をつなぐルートを中心として、「観光資源を活かした活性化」、「商店街の活性化」「観光客と地元住民の交流」などを目的とした施設整備を進める。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
愛宕山ハイキング施設利用者数	人	愛宕山ハイキング施設利用者数	愛宕山への誘導が図れたかを調査するため愛宕山ハイキング施設の利用者を調査する。	13,000人	H26	14,500人	H31
駅西(県道岩間停車場線)歩行者数	人	駅西(県道岩間停車場線)歩行者数	愛宕山までの歩行空間等の整備により、歩行者数を増加し、既存の商店街を含めた駅周辺の活性化を図る。	669人	H26	740人	H31
良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合	%	市民アンケート調査	駅周辺市街地の都市機能強化により、良好な市街地が形成されていると感じる市民実感を高める。	28.40%	H25	35.00%	H31

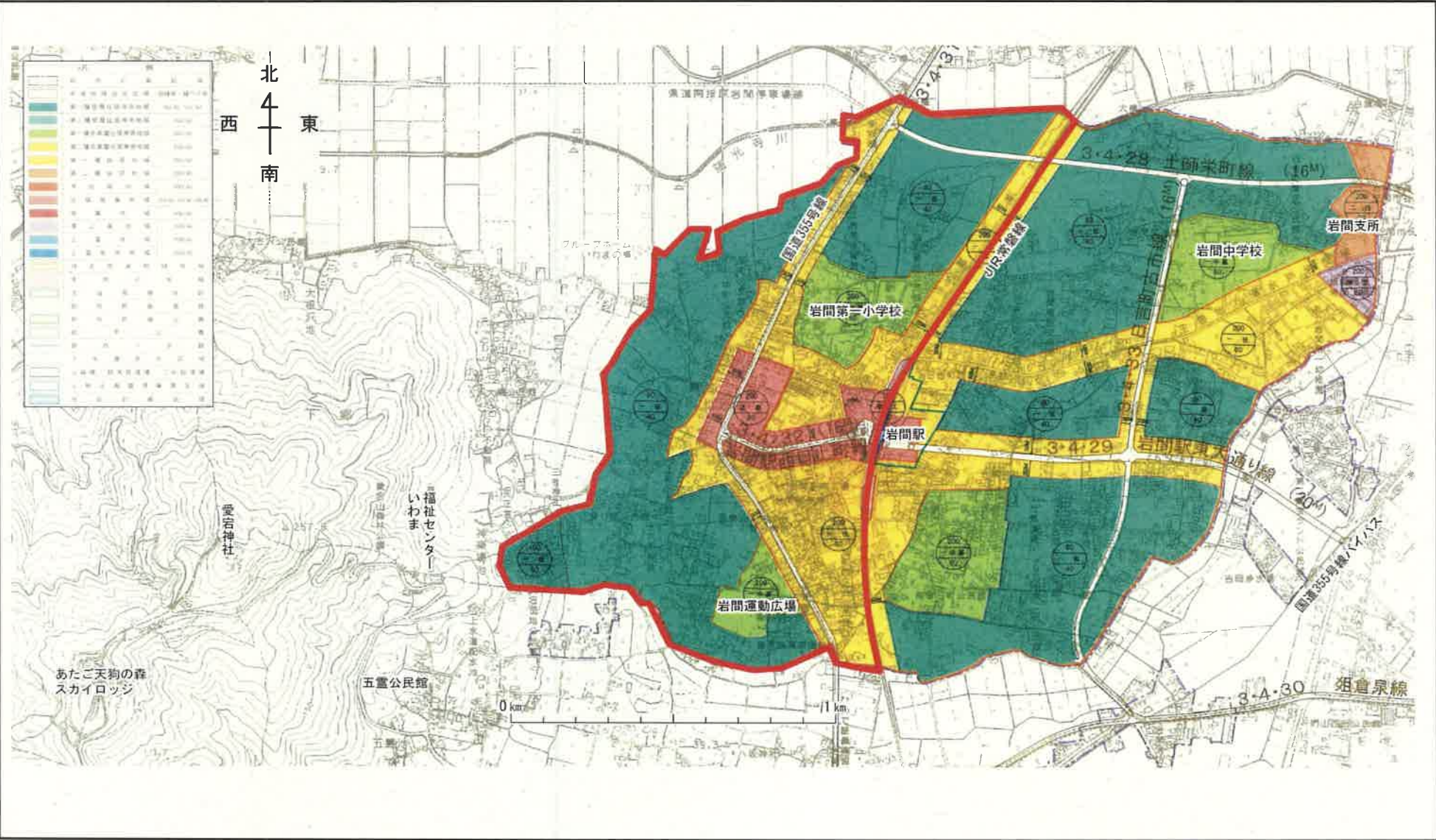
都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
○来訪者・地域住民の双方の交流・活動拠点の整備 市民活動、観光など、様々な目的をもった市内外の方が、集まることができる拠点を、未利用公有地を利用して地域交流センターを整備する。 交流センターは、市の全体目標である健康都市づくりに資するため、ホール等の団体活動向け機能、来訪者の拠点機能や市民の健康づくり機能など複合的な施設としての整備を図る。 また、岩間駅橋上化、駅東地区の区画整理事業、都市計画道路整備事業などの効果を高めるため、駅東地区との運動性向上による既存ストックの再生と活性化を図る。		高次都市施設(基幹事業:地域交流センター)
	○歩行空間の整備による既存施設及び駅周辺の魅力・回遊性の向上 岩間駅から愛宕山までのルートを軸とし、歩行部分の高質化、空き地などを利用し、交流センターと連動したイベント等の実施や憩いの場となる広場等の整備を行う。また、併せて老朽化など、不足している案内誘導版の整備を行う。	高質空間形成施設(基幹事業:県道水戸岩間線歩道空間) 地域生活基盤(基幹事業:多目的広場) 地域生活基盤(基幹事業:第1、第2ポケットパーク) 地域生活基盤(基幹事業:観光誘導案内板設置)
その他		
○総合的な市街地の整備 合併により3地区に存している駅や文化・観光施設を中心とした市街地について、現在、震災後の復興ともあいまった整備事業や駅周辺活性化プランに基づく公共施設の再配置などを進めている。これらの効果を促進していくために、同時進行として、人口減少社会における各地区市街地の機能分類やあり方、各地区のつながりといった視点による公共交通の再編や民間の誘導策等について検討を進めている。		
○市民参加と継続的なまちづくり活動の推進 平成19年の市民憲章の制定、平成22年の笠間市協働のまちづくり推進指針の策定により、「協働」の定義と、それぞれの役割と責任、協働の領域などの明確化を行ってきた。現在、「社会性」と「経済性」を兼ね備えた協働の取組みを進めるため体制の強化などに努めており、本都市再生整備事業についても、ワークショップや商工団体との協議を行いながら検討しており、整備後における地域住民による活性化に向けた取組みの継続を担保しながら進めていく。		
○大学等との連携の推進 大学連携による地域デザインの形成(提案)を継続して実施しており、地域住民と一体となったハード・ソフト両面での活性化に資する事業構築を図っているほか、同じく大学連携による地域のナビゲーションアプリ構築事業を進めているなど、本都市再生整備事業の効果促進につながる事業を展開していく。		

都市再生整備計画の区域

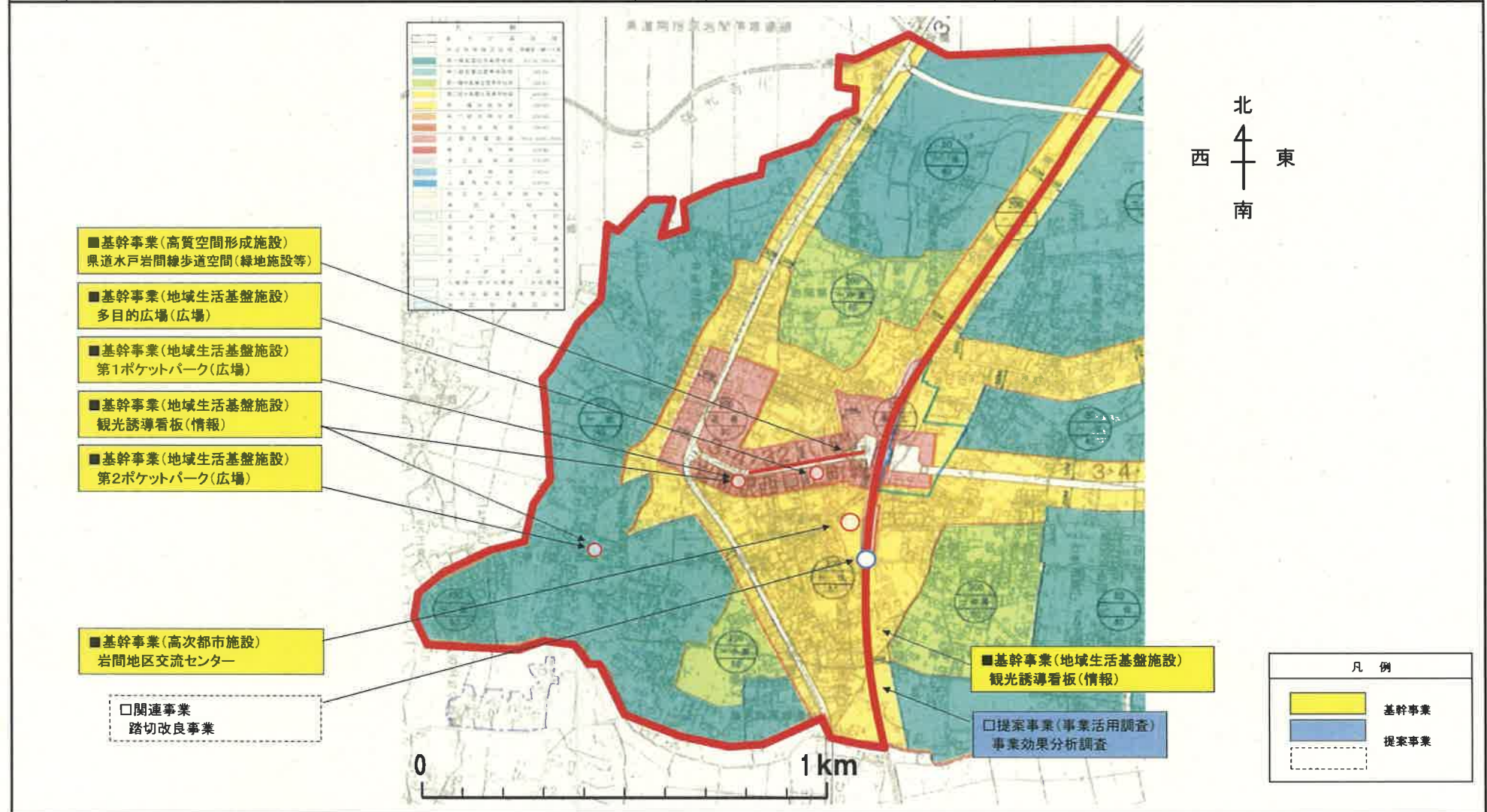
岩間駅西地区(茨城県笠間市)

面積	137.5 ha	区域	岩間駅周辺地区(下郷、泉、吉岡)
----	----------	----	------------------



岩間駅西地区(茨城県笠間市) 整備方針概要図

目標	大目標) 岩間駅前周辺と地域コミュニティ及び観光拠点施設整備による賑わいの再生	代表的な指標	愛宕山ハイキング施設利用者数 (人)	13,000	H26	→	14,500	H31
	目標1) 拠点施設整備による来街者、地域住民間の交流の促進と活動の活性化		駅西側の歩行者数 (人)	669	H26	→	740	H31
	目標2) 歩行空間の整備による観光資源及び駅周辺の魅力・回遊性の向上		良好な市街地形成を感じる割合 (%)	28.4%	H25	→	35.0%	H31



社会資本整備総合交付金チェックシート

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称: 岩間駅西地区都市再生整備計画 事業主体名: 笠間市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	○
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○